

組織的な取り組みによる 体力向上

大分県豊後大野市立三重第一小学校

全校児童数	343名(男子179名 女子164名)		
全クラス数	15	教職員数	31名
体育専科教員訪問学校数			10校
訪問校	市内全小学校(10校)		
体育専科教員名		佐藤 浩二	

Plan：取組時の課題と計画

1 取組時の課題

◆運動する子としない子の二極化

- ・日常的に外で遊ぶ子と遊ばない子、運動が多い子と少ない子がいる。
- ・学年が上がるほどその差が大きくなっている。

◆外遊びの減少

- ・運動を好まない子の外遊びが少ない。
- ・放課後や休日に外で遊ぶことがあまりない。遊べる場所も少ない。

2 取組の計画

①体育授業でのサーキットの実施

- ・体育授業の始めにサーキットトレーニングやなわとびタイムを導入して、運動量のある展開を図る。

②休み時間の外遊びの声かけ

- ・すべての教室で休み時間には、外に出て遊ぶよう声かけをする。
- ・毎月1回以上、学級のみんなで遊ぶ日を設定する。

③家庭と連携して徒步登校の推進

- ・徒步登校ができたか、学期に1回のアンケートをとる。

Do：実践内容

1 体育授業の工夫改善

(1) サーキットトレーニングの実施

- ①体育授業始めのサーキットトレーニングの内容を、運動場と体育館でそれぞれ設定し、年間を通して取り組んだ。

- ②サーキットトレーニングと合わせて、授業の中に短時間のなわとびタイムを設定し、なわとびに取り組んだ。

(2) 補助運動・補強運動の工夫

- ①学習内容に合わせ、補助運動を工夫し、基本的な技能向上と体力向上をめざした。

(3) 学習カードの工夫

- ①学年に応じた学習カードを利用し、めあてを持って意欲的に取り組めるようにした。

2 全校での組織的な取り組み

(1) 「跳べ！8の字タイム」の実施

- ①「8」のつく日（8日、18日、28日）は「8の字タイムの日」を設定し、中休みの時間に全校で長なわ8の字とびに取り組んだ。

- ②8のつく日が土日の場合は前後の金曜か月曜に設定した。縦割り班ごとに子どもたちで取り組んだ。

(2) 子どもの休み時間の実態把握・外遊びの声かけ

- ①学級担任を中心に、休み時間の様子を把握し、外に出て遊ぶよう声かけをした。

(3) みんなで遊ぶ日の実施

- ①学級ごとに「みんなで遊ぶ日」を実施した。巧みな動きを身につけることなどをめざして、伝承遊びを推奨した。

(4) 徒歩登校推進・保護者に協力依頼と実態把握

- ①PTA懇談会や学校、学級通信で呼びかけた。
- ②学級で実態を把握した。

●工夫したこと（&苦労した点）――

- ①校内体育通信（教職員向け）を発行し、取り組みについての共通理解を図り、全校が組織的に取り組むようにした。

- ②外遊びの内容や、休み時間の8の字とびの内容を明確にし、全員が取り組めるようにした。

Check：取組の成果

- ①取り組み内容を明確にしたことで、組織的に取り組むことができるようになった。

- ②サーキットトレーニングの実施、補助運動の充実で運動量を増やすことができた。

- ③学習カードを有効に活用し、学習のめあてや技のポイントを意識した授業になった。

- ④8の字タイムを含め、休み時間に外で遊ぶ子が増え、体を動かす機会が増えた。

Action：今後の課題

- ①体力テストD・E層の体力引き上げと、全校または学年の苦手種目の克服。

- ②日常的に体を動かすことが少ない子の、運動量の確保。運動を好まない子が、運動の楽しさを味わい、自ら運動したいと思うようにすること。

- ③組織的な取り組みのための、教職員間の意思疎通。

- ④実際に活動するための時間確保。

◎体力向上の取組がもたらす波及効果

- ①運動習慣が身につく。

- ②友だちと一緒に活動する楽しさを味わい、良好な集団づくりにつながる。

- ③運動に意欲的になり、他の活動も活発になる。

